
ゆきちゃんとポテトチップス

ラーメン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ゆきちゃんとポテトチップス

【NZコード】

N3708D

【作者名】

ラーメン

【あらすじ】

切ない恋愛小説です。愛する人への本気の気持ちを切ない物語として書いて見ました。とにかく切ない感動のエピソードです。

(前書き)

とにかく切ないです。

僕の名前はポテトチップス。

なぜポテトチップスという名前をつけられたかは分からない。

おそらくジャガイモを原料としてつけられたからポテトという単語が入つてるのである。

チップスはなんだろう？まあ細かい事を気にするのはやめよう。こう見えて僕、ポテトチップスは〇型である。

だから細かい事はなしとしよう。

ポテトチップスは1回人間の口に入り胃に入つてしまえばそれまでである。

だからポテトチップスの寿命は短い。

僕はまだ生き残っているポテトチップスだ。

この人間達は今飲み会をしているところであろう。

どんどん僕の仲間は消えてゆく。

正直切ない。

オーラ力な心を持つとヨーロッパで有名な僕でさえ切ない。

そう！僕、ポテトチップスはヨーロッパで生まれた。

日本に輸入されて来たポテトチップスです。

船で輸入されて来たんだけど途中、北朝鮮当たりで船酔いしてしまいました。

まあそんな話は置いときまして話はさかのぼりまして飲み会でしたね。

僕の親友、裕次郎もついに去りました。

僕はなかなか人間の眼中に入りません。

そう！今気付きました。

僕はポテトチップスの最後の方に残つてしまつカス中のカスなんですよ。

ああ…僕はどうなつてしまつのだろうと不安に陥っていました。

結局仲間は消え去りゴミ箱の中へ。・ポイッ・・僕は今ゴミ箱の中にいます。

一緒にゴミ箱の中へ行つた仲間が唯一一人いました。

名前はゆきちゃんです。

僕・ポテトチップスは以前からゆきちゃんに恋心を抱いていました。正直・こりやチャンス!と思いました。

その日から僕は毎日ゆきちゃんをデートに誘いました。

ゴミ箱の中で。

僕はゆきちゃんにポテチというあだ名を付けられました。ある日ゆきちゃんはかなりテンションが低かったです。するとゆきちゃんは僕に初めて泣き顔見えました。ゆきちゃんは意地つ張りな性格で泣き顔なんて見せるような娘ではなかつたのです。

僕は黙つてただゆきちゃんを抱きしめました。

ゆきちゃんはこうつ言いました。ありがとう(泣)初めて男の人の温もりを体感した。つて。その日僕はゆきちゃんに告白しました。僕はポテトチップス・ゆきちゃんもポテトチップス・だけど僕はゆきちゃんがスキ・僕と結婚を前提にお付き合いして下さい。つて。ゆきちゃんは少し考えさせて。と言いました。そして時は流れクリスマスの季節。

その日OKをもらいました。

クリスマスはどうかでデートしたいなあなんて思いました。でもここはゴミ箱の中。

デートなんて話ではないから2人で過ごしました。

そして夜になり2人でベッドで寝ていました。

そしたらいきなり地震がおきました。

かなり揺れて僕はただゆきちゃんを抱きしめました。

そう!今日は人間の世界ではゴミ箱の日だつたようです。

今僕はゴミ置き場にいます。

ゆきちゃんに言いました。

僕ポテトチップスだけど絶対ゆきちゃんを守から。

つて。ゆきちゃんのその時の微笑みを僕は絶対忘れません。ゴミのトラックがやってきました。トラックの中で揺られながらその時もずっと僕はゆきちゃんを抱きしめていました。そして焼却炉の中にいれられました。熱い・・熱い・・とゆきちゃんが泣きました。僕は必死にゆきちゃんを守りました。不良6人組が紛れ込んで来ました。こりやイイ女だ。とその不良6人組はゆきちゃんを犯し始めた。僕は正直かなりビビってました。しかしゆきちゃんへの愛の方が大きかった。必死にゆきちゃんを助けようとしました。僕は不良6人組に殴りかかってたけどボコボコに殴られました。ゆきちゃんにたどり着いた時にはすでにゆきちゃんはレイプされて泣いていました。僕は悔しくて悔しくてさらに不良6人組に殴りかかったがボコボコにリンチされてそれでも立ち上がりました。のちに不良6人組は皆焼け死んでいました。僕とゆきちゃんはこのヤバい中ギリギリ生き残っていました。ゆきちゃんを守れなかつた。

僕は悔しくて仕方なかつたけどゆきちゃんはこう言つてくれました。ありがとう(泣)ポテチかっこ良かつたよ(泣)惚れ直しちやつたつて。今までにない微笑みを僕に見せてくれました。でもゆきちゃんの身体はすでに弱つていました。もつすぐ2人とも死ぬ事はわかつていました。でも僕が先に死んだらゆきちゃんは悲しむ・・だから僕はがつても先には死ないと精神統一しました。しかしへももう限界に達していました。ゆきちゃんは僕の胸でずっと僕の名前を呟いていました。「めんねゆきちゃんと泣きながら僕は言いました。謝らないで大スキだよポテチ・・この言葉を残してゆきちゃんは黙りました。ゆきちゃんをギュッと抱きしめた時・・ゆきちゃんは死んでいました。僕はそれを知った時辛くて辛くて涙ですら出ませんでした。僕は人間つてなんて皮肉な生き物なんだろうって思いました。僕はそんな事を考へていると三途の川を渡っていました。渡るとゆきちゃんが笑顔で待っていたのです。そう・・僕も死にました。ゆきちゃんの微笑みへ向かつて何の迷いも無く歩いたのです。

(後書き)

ポテトチップスにも気持ちがあるのです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3708d/>

ゆきちゃんとポテトチップス

2011年1月15日22時07分発行